



IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポート

IPv6 アドレスへのエクスポート機能によって、Flexible NetFlow で IPv6 アドレスを使用してデータを送信先にエクスポートできます。

- [機能情報の確認, 1 ページ](#)
- [IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートについて, 2 ページ](#)
- [IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの設定方法, 2 ページ](#)
- [IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの設定例, 5 ページ](#)
- [その他の関連資料, 5 ページ](#)
- [IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの機能情報, 7 ページ](#)

機能情報の確認

ご使用のソフトウェア リリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の警告および機能情報については、『[Bug Search Tool](#)』およびご使用のプラットフォームとソフトウェア リリースに対応したリリース ノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートについて

IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの概要

この機能によって、Flexible NetFlow で IPv6 アドレスを使用してデータを送信先にエクスポートできます。

IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの設定方法

フロー エクスポートの設定

フロー エクスポートを設定するには、次の必須作業を実行します。



(注)

フロー エクスポートごとに、1 つ宛先のみがサポートされます。複数の宛先にデータをエクスポートする場合は、複数のフロー エクスポートを設定してフロー モニタに割り当てる必要があります。

IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかを使用して宛先にエクスポートできます。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **flow exporter** *exporter-name*
4. **description** *description*
5. **destination** {*ip-address* | *hostname*} [**vrf** *vrf-name*]
6. **export-protocol** {**netflow-v5** | **netflow-v9** | **ipfix**}
7. **dscp** *dscp*
8. **source** *interface-type interface-number*
9. **option** {**exporter-stats** | **interface-table** | **sampler-table** | **vrf-table**} [**timeout** *seconds*]
10. **output-features**
11. **template data timeout** *seconds*
12. **transport** **udp** *udp-port*
13. **ttl** *seconds*
14. **end**
15. **show flow exporter** *exporter-name*
16. **show running-config flow exporter** *exporter-name*

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	flow exporter <i>exporter-name</i> 例 : Device(config)# flow exporter EXPORTER-1	フロー エクスポートを作成し、Flexible NetFlow フロー エクスポート コンフィギュレーションモードを開始します。 • このコマンドでは、既存のフロー エクスポートを変更することもできます。
ステップ 4	description <i>description</i> 例 : Device(config-flow-exporter)# description Exports to the datacenter	(任意) コンフィギュレーションおよび show flow exporter コマンドの出力に表示されるエクスポートの説明を設定します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	destination { <i>ip-address</i> <i>hostname</i> } [vrf <i>vrf-name</i>] 例 : Device(config-flow-exporter)# destination 172.16.10.2	エクスポートの宛先システムの IP アドレスまたはホスト名を指定します。 (注) IPv4 または IPv6 アドレスのいずれかを使用して宛先にエクスポートできます。
ステップ 6	export-protocol { netflow-v5 netflow-v9 ipfix } 例 : Device(config-flow-exporter)# export-protocol netflow-v9	エクスポートで使用する NetFlow エクスポート プロトコルのバージョンを指定します。NBAR から抽出されたフィールドのエクスポートは IPFIX でのみサポートされています。 • デフォルト値 : netflow-v9 。
ステップ 7	dscp <i>dscp</i> 例 : Device(config-flow-exporter)# dscp 63	(任意) エクスポートによって送信されるデータグラムの Diffserv コードポイント (DSCP) パラメータを設定します。 • 引数 <i>dscp</i> の範囲は 0 ～ 63 です。デフォルト : [0]。
ステップ 8	source <i>interface-type</i> <i>interface-number</i> 例 : Device(config-flow-exporter)# source ethernet 0/0	(任意) エクスポートで、エクスポートされたデータグラムの送信元 IP アドレスとして IP アドレスを使用するローカル インターフェイスを指定します。
ステップ 9	option { exporter-stats interface-table sampler-table vrf-table } [timeout <i>seconds</i>] 例 : Device(config-flow-exporter)# option exporter-stats timeout 120	(任意) エクスポートのオプション データ パラメータを設定します。 • 3 つのオプションを同時に設定できます。 • 引数 <i>seconds</i> の範囲は、1 ～ 86,400 です。デフォルト値 : 600。
ステップ 10	output-features 例 : Device(config-flow-exporter)# output-features	(任意) Quality of Service (QoS) と暗号化を使用したエクスポート パケットの送信をイネーブルにします。
ステップ 11	template <i>data</i> timeout <i>seconds</i> 例 : Device(config-flow-exporter)# template data timeout 120	(任意) タイムアウトに基づいてテンプレートの再送信を設定します。 • 引数 <i>seconds</i> の範囲は、1 ～ 86400 です (86400 秒 = 24 時間) 。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	transport udp <i>udp-port</i> 例 : <pre>Device(config-flow-exporter)# transport udp 650</pre>	エクスポートされるデータグラムを宛先システムが待機する UDP ポートを指定します。 • 引数 <i>udp-port</i> の範囲は 1 ～ 65536 です。
ステップ 13	ttl <i>seconds</i> 例 : <pre>Device(config-flow-exporter)# ttl 15</pre>	(任意) エクスポートによって送信されるデータグラムの存続可能時間 (TTL) 値を設定します。 • 引数 <i>seconds</i> の範囲は 1 ～ 255 です。
ステップ 14	end 例 : <pre>Device(config-flow-exporter)# end</pre>	フロー エクスポート コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 15	show flow exporter <i>exporter-name</i> 例 : <pre>Device# show flow exporter FLOW_EXPORTER-1</pre>	(任意) 指定されたフロー エクスポートの現在のステータスを表示します。
ステップ 16	show running-config flow exporter <i>exporter-name</i> 例 : <pre>Device# show running-config flow exporter FLOW_EXPORTER-1</pre>	(任意) 指定されたフロー エクスポートの設定を表示します。

IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの設定例

その他の関連資料

関連資料

関連項目	参照先
Cisco IOS コマンド	『Cisco IOS Master Command List, All Releases』

関連項目	参照先
Flexible NetFlow の概念情報および設定作業	『Flexible NetFlow コンフィギュレーション ガイド』
Flexible NetFlow コマンド	『Cisco IOS Flexible NetFlow Command Reference』

標準/RFC

標準	タイトル
この機能によりサポートされる新規または変更された標準/RFC はありません。	—

MIB

MIB	MIB のリンク
なし	選択したプラットフォーム、シスコソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。 http://www.cisco.com/go/mibs

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
シスコのサポートおよびドキュメンテーション Web サイトでは、ダウンロード可能なマニュアル、ソフトウェア、ツールなどのオンライン リソースを提供しています。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。	http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html

IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、www.cisco.com/go/cfn に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1 : IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow エクスポートの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 アドレスへの Flexible NetFlow : エクスポート	15.2(2)T Cisco IOS XE Release 3.7S	この機能によって、Flexible NetFlow で IPv6 アドレスを使用してデータを送信先にエクスポートできます。 次のコマンドが導入または変更されました。 destination

